

## 前畑誕生のキーポイント

17

- 地理的要因
- 橋本小学校の運動奨励
- 西中武吉校長の存在

## 2. 前畑を育てた椋山女学園

18



前畑秀子・二宮千代・藤原の次女・東  
三奇子 三松 田原子 小島 (1928年撮影)

(写真: 椋山歴史文化館所蔵)

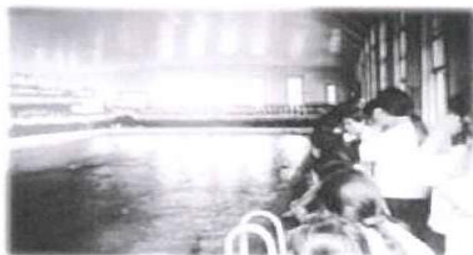
## 椋山女学園 椋山正式校長

19

- 前畑の後ろ盾となったのが、  
椋山女学園であり、椋山正式校長（初代校長）



(写真: 椋山歴史文化館所蔵)



椋山第二高等女学校室内プール(1928年竣工)

## 当時の女子教育

20

- ☞ 女性の潜在的能力の開発
- ☞ 体力の充実・体育振興

[第一次世界大戦以前]

- 次代の国民を産み、育てる母としての役割

[第一次世界大戦後]

- 欧米女性と比べて体力的に遜色のない女性
- 男性の代替え労働に耐え得る健康強壮な女性

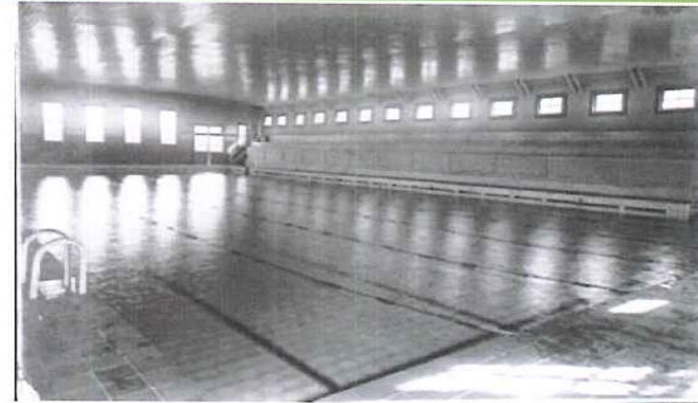
競技性を強めたスポーツへと変化

## 椋山における運動（スポーツ）の奨励

21

- 1921 (T.10)年：椋山正式校長のアメリカ視察  
↓
- 椋山第二高等女学校 開設（1924 (T.13)年）  
「身體美を増すには、運動に待つ外はない、健康の愉快を味ふには運動に待つ外はない、精神の快活を得るには運動に待つ外はない」（『糸菊』大正13年号、pp.1-3）
- 1924 (T.13)年：広い運動場
- 1927 (S.2)年：1周200mの陸上競技場
- 1928 (S.3)年：屋内プール（7月）**椋山「水泳部」創部**

## 1928 (S.3)年竣工 椋山第二高女の屋内プール



女学校・高等女学校に設置された日本初の屋内プール（写真：椋山歴史文化館所蔵）

## 椋山水泳部における前畑とは

23

- 1928 (S.3)年：プール竣工、水泳部創部
- 1929 (S.4)年：前畑編入（10/5）
- 86年の歴史をもつ水泳部（1928-2014）



（写真：椋山歴史文化館所蔵）

水泳部の黎明期に存在し、  
現在に続く水泳部の土台を  
つくった、最も初期の人物

## Have a break (ちょっと一息)!!

24

オリンピックの五輪の意味、ご存じですか？

- 5つの輪は5大陸の連帯
- 世界中の人々が1つの場所に集まる
- 青・黄・黒・緑・赤の色は、地色の白を加えると世界の国旗のほとんどを描くことができる



## Have a break(ちょっと一息)!!

25

### オリンピックのモットー(標語)

Citius(より速く)

Altius(より高く)

Fortius(より強く)

“Be a Champion in Life!!”  
(人生のチャンピオンになろう)  
今日より明日の自分を目指してベストを尽くす

## 選手時代の苦節・決意・栄光

26

### ベルリンオリンピック準決勝(1936年)



## 選手時代の苦節・決意・栄光

27

### ベルリンオリンピック表彰式(1936年)



## 前畑の苦悩

28

- 両親の死  
(1931年1月14日母、6月14日父他界)
- ロサンゼルス五輪後の日本国民の反応  
(なぜ0.1秒で2位になったのか・・・、次は金メダルを)
- ベルリン五輪への国民の期待  
(金メダルを取れなければ死のう・・・)

## 前畑の決意

29

### □ 両親の死

私は、橋本の町長さん、西中先生、町の人たち、親戚、兄弟、椋山女学校の校長先生や友人たち、そういうこれまでに私を心から応援してくれた人たちのことを思い出して、恐ろしくなってきました。

(兵藤秀子「前畑ガンバレ」より)

「応援してくれている人がいる。  
死にもの狂いになって、頑張ってみよう」

## 前畑の決意

30

全力でやり抜く

- ロサンゼルス五輪後の日本国民の反応  
「やりはじめたことは、どんなに苦しいことがあっても最後まで、やり抜こう」
- ベルリン五輪への国民の期待  
「出場する以上は、優勝しなければならない。1年365日を1日も練習を休まずに、4年間を過ごそう」  
⇒ 1日2万メートル練習を開始

(兵藤秀子「前畑ガンバレ」より)

## 「心の悲痛」

31

「負けたら帰ってくるな」、「死んでも勝て」

### ～前畑の名言～

「優勝できなかつたら、帰りの船から飛び降りて死ぬしかない。しかし自分は泳げる。さて、どうやって死ぬか。」

(ベルリン五輪直前の気持ちを振り返って)

## ベルリンオリンピック決勝当日の日記より

32

「今日が自分の生、死の定まる時やと思ふたり、死すとも勝ちたい、タッチの差でいい、タイムは悪くても、勝ちたい。どれ程、神様にお祈り上げた事でせう。〈中略〉 眞赤なあの神様に目をとどて御願申上げ、飲み込んでしまった。〈中略〉 スタートに立つ前、静かに目をとど、タッチの差でいいから勝たして下さい、日本の神様と言ふと、もう胸が一杯で、泣けて来てしようがない、何くそどの様な事があるかと勝つて見せる。天野先生も、前畑、前畑と応援して下さい。」

(椋山歴史文化館所蔵、前畑秀子「日記」1936/8/11より)